

# ワンポイント 家庭教育講座①



～子どもさんと会話できていますか？～



## コミュニケーション（日常会話）

子ども達の生活のあらゆる場面においてコミュニケーション体験を豊かにする基本的なポイントを紹介し、これらを参考にして、日頃の自分の関わり方を振り返り、日常生活の中でさらに実践し続けてみませんか。



### ポイント1

#### 子どもの話を最後まで聞く。（言葉の先取りをしない）

（解説）

子どもの話を最後まで聞かず、子どもが伝えたいことの意を汲んでしまい、大人が先に行動したり、話をしたりすることはありませんか。「先生、プリント…。」「ここにあるよ。」や「おかあさん、ご飯…。」「じゃあ、食べる準備をしようね。」また、「子どもがうまく説明できずにいるところに、大人の側から内容を導き出す。」などがわかりやすい例でしょう。

これらの積み重ねが、自分の思いを正確に伝えられないという現象につながります。子どもが、「主語、述語」を使ってきちんと話せるようになるために、大人が言葉の先取りをせずに「待つこと」「我慢すること」、そして「最後まで伝えられるよう仕向けること」（「プリントがどうしたの？」「ご飯をどうしたいの？」）が大切です。



### ポイント2

#### 子どもの話は、目を見て聞く。時にはうなづく、共感する。



（解説）

子どもとの会話の中で、大人が話している子どもの目を見て、うなづく等の反応をすることで、子どもは、話が相手に受け止められている、自分が大切にされていると感じ、安心して会話を続けよう、伝えようという気持ちになります。そして、思いを伝えることの喜びを感じ取り、その積み重ねが、自尊感情の向上や、何事にも前向きに取り組もうとする意欲の向上に結びつきます。

さらに、普段の日常会話から、大人自らが、話を聞く姿勢を子どもに教えていくことを積み重ね、子どものコミュニケーション能力の向上を図る必要があります。



### ポイント3

#### 会話のキャッチボールをする。そのために、話の内容について、さらに尋ねる。

（解説）

子どもにとって話したいことがあっても、大人が「そう、よかったね。」とだけ話し、会話を打ち切ってしまうと、「もっと話したいのに…」「もっと聞いてくれてもいいじゃない」となります。コミュニケーションに必要な会話のやり取り（キャッチボール）を覚えていく貴重な機会が失われます。「それでどうしたの？」「どう思ったの？」といった言葉から会話を継続させていくことが重要になります。

子どもとコミュニケーションをとる時間がなかなか作れないという場合もあると思います。そのような時はちょっと面倒だと思ふこともあるでしょう。でも、大人が忙しいので、子どもの側からの会話の機会を減らす、というのはできるだけ避けたいものです。少しの時間でもいいので、会話のキャッチボールを増やしてみてください。

